



マニフェスト大賞とは

■趣旨

マニフェスト大賞はこれまで注目を集めることの少なかった地方自治体の首長、議員や地域主権を支える市民の活動実績を募集・表彰し、発表することで、地方政治で地道な活動を積む人々に名誉を与え、更なる政策提言意欲の向上につながることを期待するものです。

■受賞特典

記事を毎日新聞にて紙面掲載。大会冊子やホームページにて掲載され、広く自治体・メディア等に周知されます。

- * 受賞者には賞状とトロフィーが贈呈されます
- * 大会冊子に掲載され、各メディアで紹介されます

■応募期間

2014年7月1日～8月31日

■ホームページ

<http://www.local-manifesto.jp>

■マニフェストマーク

マニフェスト大賞、「善政競争」を広めるために、ぜひご利用ください！



各賞概要

■ マニフェスト賞

(審査対象)

会派や首長で、選挙に際しマニフェストまたは公約を発表し、活動を通じて政策が実現していること。また、マニフェストの検証・進捗チェックなどマニフェストサイクルとして政策実現のために活用していること。市民団体は、国政・地方選挙を問わず、マニフェスト型公開討論会・マニフェスト評価大会の開催、市民マニフェストの作成など地域でマニフェストを市民レベルで推進している優れた取り組み。

(応募資格)

会派、首長、市民団体

※会派は複数会派での申込可。1 人会派でも可。会派に属さない議員に限り個人名の申込も可

■ 成果賞

(審査対象)

マニフェストの有無を問わず、議会活動を通じて政策を実現させ、成果を上げていること。

(応募資格)

地方議会、会派、委員会

※会派は複数会派での申込可。1 人会派でも可。会派に属さない議員に限り個人名の申込も可

■ 政策提言賞

(審査対象)

マニフェストの有無を問わず、議会活動を通じて提案した政策のうち、優れているもの。実現に至っていなくてもよい。政策提言については、

提案の背景・提言方法・質問後の取り組み等も評価する。

(応募資格)

地方議員、市民団体

■ ネット選挙・コミュニケーション戦略賞

(審査対象)

ホームページやブログ、SNS、広報誌、チラシ等により情報発信し、住民と活発に情報共有・情報交流を行っているもの。ネット選挙（応募時点までの日常的、継続的な取り組みや成果）、オープンデータ（公共データを利用しやすい形で公開すること）に関する積極的な取り組み。

(応募資格)

地方議会、会派、地方議員、政党支部、地域政党、首長、市民団体、自治体

■ 復興支援・防災対策賞

(審査対象)

東日本大震災や全国各地で起こる様々な災害を受け、自治体間のネットワーク、自治体と民間企業の連携、地方議会・議員、市民団体などによる復興支援や防災対策の活動と提言内容。

(応募資格)

地方議会、会派、地方議員、政党支部、地域政党、首長、市民団体、自治体

審査委員

■審査委員長

北川正恭 早稲田大学マニフェスト研究所所長

■審査委員

曾根泰教 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授

塚本壽雄 早稲田大学 大学院公共経営研究科教授

江藤俊昭 山梨学院大学法学部教授

廣瀬克哉 法政大学法学部政治学科教授

千葉茂明 月刊「ガバナンス」編集長

藤森克彦 みずほ情報総研 社会保障藤森クラスター 主席研究員

西尾真治 三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員

人羅格 毎日新聞社論説委員

杉尾秀哉 TBS テレビ解説専門記者室長

定金基 NPO 法人カットジェイピー理事

■特別審査委員

箭内道彦 風とロック クリエイティブ・ディレクター

秋吉久美子 特別審査委員 女優

1. 電子書籍

地方議員の新ツール「電子書籍」を4冊発行し、一般質問の政策提言を実施

■取り組み概要

（背景）北海道の蘭越町（人口5,000人）は、首長が7期目で76歳、議員の平均年齢（私を除く）が68歳と非常に高齢であり、ネットを活用した情報発信がまったくできていないという課題があった。そのため、任期前半は、ブログを毎日更新（議員ブログで検索順位が全国一位）し、facebook（友達1,800人）で、情報発信及び交流を行いつつ、町に対してICTを活用した政策提言を行ってきた。

（提言の方法）3年目は、議員活動に関する電子書籍を4冊出版し、成果検証を図りながら、町に対して、電子書籍を活用した情報発信について一般質問で政策提言を行った。自らの電子書籍がメディアにも取り上げられ、首長が認知していたことで説得力が増し、結果、首長からは「有効なツールなので、実施する方向で検討したい」と前向きな答弁を引き出すことができた。

（質問後の取り組み）一度に多くの住民が電子書籍を出版して町おこしを行う「らんこし作家デビュープロジェクト」の取り組みを行い、13歳から85歳までの住民で38冊の本を出版した

（成果）電子書籍4冊を無料で作成及び配信し、約25,000人に閲覧されている。

。

・北海道の地方議員の取り組み～第8回マニフェスト大賞応募内容～マニフェスト大賞の応募内容を通じて、議員活動の取り組み（2012年9月～2013年8月）を公開し、共有している。2013年10月1日発行。1,328

人が閲覧。

・北海道イケメン議員 フェイスブック写真集

北海道の4人の若手議員の写真集。まちの紹介、立候補のきっかけ、議員活動、活動ポリシーなども掲載。2013年11月1日発行。5,246人が閲覧。

・北海道市町村議会の情報公開度ランキング（調査結果）

北海道の179市町村議会のホームページを閲覧し、情報公開度を独自基準で採点し、ランキングした報告資料。2013年11月6日発行。3,044人が閲覧。

・そうだ！世界一周の旅をしよう！～写真で見る世界一周の新婚旅行ルート～

議員になる前に、どのようなことをしていたかを知ってもらうことに役立っている。2014年3月1日発行。14,925人が閲覧。

・1人でできる！3万円できる！蘭越町議会議員選挙 立候補マニュアル 選挙の立候補マニュアル本。地方議員に関心をもってもらい、立候補者を増やすことにつなげていく。2014年9月1日発行予定。

■ポイント

電子書籍を無料で作成し、楽天やパプーで無料配信している。内容もマニフェスト大賞応募の自らの議員活動、地方議員4人の写真集、北海道179市町村議会の情報公開度の調査結果などバラエティに富んでいる。地方議員の新ツールである電子書籍を全国でいち早く取り入れ、積極的に活用している。自ら電子書籍を作成し配信することで、一般質問での政策提言、住民のまちおこしでの成果などに確実につなげている。

（生活者起点）議員が何をしているかわからないという住民の声は非常に大きい。ブログやfacebookだけでなく、電子書籍でも議員活動を公開していくことは意義がある。

（おもしろさ）出版した本の中には、北海道のイケメン議員の写真集も

あり、非常にユニークである。

（地域ビジョン）今回の取組みにより、全国初の住民が作家となり、町おこしを行う「らんこし作家デビュープロジェクト」につなげ、町ごとプロデュースを行っている。

（地方分権）出版した本には、北海道の179市町村議会の情報公開度を独自で調査した報告書もあり、地方分権のためにも必要な情報である。

（話題性）電子書籍を出版し、議員活動のことを多くの人に知ってもらい、メディアにも多数取り上げられている。*参考資料参照

（先進性）地方議員で、電子書籍のツールをこれほどまでに議員活動に利用しているのは全国でも例がない。

■参考 URL

<http://p.booklog.jp/users/hiroyuki-biwa>

<http://matome.naver.jp/odai/2139417864642610201>

■添付ファイル

HBC 北海道放送（2013年11月5日） 他



2. 住民作家

議員活動の電子書籍を4冊出版し、成果検証後に一般質問で政策提案、13歳から85歳までの住民が38冊の本を出版し、町まるごとのプロジェクトを実施

■取り組み概要

（背景）北海道の蘭越町（人口5,000人）は、首長が7期目で76歳、議員の平均年齢が68歳（私を除く）と非常に高齢であり、ネットを活用した情報発信がまったく出来ていないという課題があった。

（これまでの取り組み）任期前半、ブログを毎日更新（議員ブログで検索順位が全国一位）し、facebook（友達1,800人）で、情報発信及び交流を行ってきた。同時に、情報発信に長けているフェイスブックユーザを集めて、蘭越町フェイスブック会を設立し、後志管内20市町村の団体とつながり、全国初となるSNSを活用した地域活性化イベントの後志フェイスブック祭りを5回実施してきた。

（今回のアイデア）情報発信できるユーザで地域課題に取り組んできたが、情報発信したくてもできない住民の頭の中をいかに情報発信していくかを考えていた。結果、電子書籍のツールを活用していくことを考えた。

（トライアルの実施）議員活動に関する電子書籍を4冊出版した。無料で作成し、無料で配信したところ、約25,000人のユーザに閲覧され、非常に効果があることが確認できた。

（議会活動）一般質問で、電子書籍を活用したPR強化の政策提言を行った。首長からは「効果があると想定される。行政よりも住民で実施する方が拡がる。できることはサポートしたい。」との前向きな答弁があった。

（施策の実施）13歳から85歳までの住民で、一度に38冊の本を出版

し、世帯 1%以上の 24 名の町民が作家デビューをした。本の出版で住民の自己実現を図り、製本した本を図書館に寄贈し図書館の魅力アップ、本の内容で住民同士が交流し、本は電子書籍で PR 強化し、取り組み全体がまちおこしとして全国からメディアが殺到している。*メディア掲載が多数すぎるため一部のみ参考参照

■ポイント

(生活者起点)住民が本を出版するため、住民が主役の取り組みである。また、本の内容を通じて、住民同士の交流促進につながっている。

(地域ビジョン)世帯 1%以上の住民が作家というのは全国に事例がなく、住民作家の町らんこしとしてのブランディングができています。また本の内容を通じて、米、温泉、パウダースノーなどの観光資源の PR にもつながっている。

*これまでの取り組みは参考 URL を参照

(透明性)企画の着想から、議会での提案、施策の実施、住民への説明会などすべてのサイクルをブログ、ホームページ等でも情報公開している。また施策のノウハウは電子書籍でも公開している。

(対住民)世帯 1%以上の 25 名の町民、3 名が町出身者、10 名が周辺町村で蘭越町に縁がある住民が本を出版するなど住民を巻き込むことができている。

(議会の機能)議員として一般質問で政策提言を行ったが、すべて行政に依存するのではなく、住民を巻き込み実施するという方法もあることを他の議員や行政職員にも気づきを与えている。

(おもしろさ)出版した 38 冊の本は、13 歳から 85 歳までの年齢の幅が広い。また内容も小説、写真集、イラスト、町紹介、会社パンフ、自分史など多岐にわたっており非常にユニークである。

*出版した本は参考 URL を参照

(地方分権)北海道の人口 5000 人の小さな町でも、自らの取り組みによって全国から注目されるということが証明され、行政や議会に一石を

投じている。

（先進性）電子書籍というツールを使った町おこしは全国初の取り組みであり、全国から取材が殺到していることから先進的な手法を用いている。

（継続性）3月1日に38冊の本を出版したが、6月下旬から10月末までを原稿の締切期間として、第2弾がスタートするなど継続性にも問題がない。

（経済性）施策経費は15万円である。その内、図書館への本の寄贈代が10万円であるため、ほとんど経費をかけずに施策を展開できている。

■参考 URL

<http://p.booklog.jp/users/rankoshi>

<http://matome.naver.jp/odai/2139417864642610201>

■添付ファイル

北海道ファンマガジン（2014年2月26日） 他

北海道のいま 編集部・2014/02/26

蘭越町民らが電子書籍38冊を一斉出版! 著者は13歳から85歳まで

電子ブックなら BookLive
BookLive.jp
読者が欲しい作品も多数で今すぐ読める PC、スマホ、タブレットで電子書籍

【蘭越町】町民や町にゆかりのある人たちが書いた電子書籍38冊が2014年3月1日に出版される。同日夕刻には町民センターで出版記念会も開催。インターネット上で無料配信されるほか、町内の図書館にも製本された書籍が置かれ閲覧可能。電子書籍を使った全国的にも珍しい取り組みについて、らんこし作家デビュープロジェクトの誌誌博之さんに話を聞いた。

3. 温泉ソムリエ

温泉ソムリエに関する政策提言を行い、地域住民を巻き込みながら、ニセコエリア（蘭越町、ニセコ町、倶知安町、真狩村）の温泉の普及施策を実施

■取り組み概要

（背景）蘭越町にはお米と温泉の資源がある。お米に関しては、らんこし米として道内でも一定の評価を得ており、国、道、町のいろいろな政策を通じて、取組みを強化してきた現状がある。しかし、温泉に関しては、町内に7つの温泉郷があるにもかかわらず、これまで何ら政策を実行してこなかった。

（提言方法）

予算特別委員会の総括質疑（H25. 3. 14）において、温泉の取組みがなされていないことを指摘し、町長からは「いい政策がないので、何かあればぜひ提案してほしい」との答弁を得ていた。その後、自ら自己研鑽を行い、温泉ソムリエの認定を取得（H25. 3. 22）した。その上で、定例議会（H25. 6. 24）の一般質問において、観光協会や温泉施設の関係者が温泉ソムリエの認定を受けて、町をあげて温泉の取組みを強化していることをアピールすべきと政策提言した。町長からは、「温泉の町としてイメージ強化を図るためにも有効な手段である」「温泉ソムリエ資格の費用を行政が支援する方法も検討したい」と提言を受け入れる答弁があった。なお、再質問にて、町長を含め町幹部職員や議員も自ら温泉ソムリエを取得していく姿勢が必要であると伝えている。

（質問後の取組み）

議会や委員会等において、町での取り組みの進捗状況を確認していくとともに、地域の住民を巻き込みながら、次のことに取り組んできた。

- ・ facebook やブログによる情報発信だけでなく、温泉ソムリエのサイトを作成した
- ・ 蘭越町には温泉ソムリエが私だけであったため、周辺町村の温泉ソムリエと連携し、勉強会等を実施した
- ・ 北海道で初開催となる温泉ソムリエ認定セミナーを開催し、56 名の温泉ソムリエを誕生させた
- ・ 温泉に関するイベントを開催し、同時に温泉ソムリエによるホスピタリティ強化の取り組みを行った

■ポイント

ポイントとしては2点ある。1点目が温泉ソムリエの政策提言をするとともに、自らも資格を取得した。2点目は行政だけに任せるのではなく、周辺町村の温泉ソムリエと連携し、住民を巻き込みながら、温泉ソムリエ認定セミナーの開催、温泉イベントの開催などの成果を出していることである。

(生活者起点) 7つの温泉郷があり、カントリーサインが温泉にもかかわらず、米ばかりの取り組みで温泉の施策がないとの声が多くあった。

(おもしろさ) 温泉ソムリエは全国の有名人等が取得していることもあり、非常にわかりやすいアプローチである。

(創造性) フェイスブックに感想を投稿すれば温泉入浴が無料になるという参加者型のユニークなイベントを2回実施した。

(地域ビジョン) 7つの温泉郷という資源、温泉ソムリエの人材、人材を核としたホスピタリティの向上、温泉に関する地域横断型のイベントをミックスさせて、温泉のイメージ向上を図っている。

(地方分権) 温泉という地域資源を活用し、地域が一体となって個性あるまちづくりを推進していくことは地域主権そのものの考え方である。

(その他) 議会での一般質問を行いつつも、行政に依存するだけでなく、地域住民を巻き込みながら自らできることは実施していく必要がある

と考えており、温泉ソムリエに関する取り組みもその一つである。

■参考 URL

<http://pucchi.net/hokkaido/funlog/201407fbfes.php>

■添付ファイル

北海道ファンマガジン（2014年7月19日） 他



4. 移住定住

移住する際の苦い経験等を活かし、初めての移住者の議員として、移住定住の促進を政策提言

■取り組み概要

（背景）北海道の蘭越町（人口 5,000 人）は、議員の平均年齢が 68 歳（私を除く）であり、町の有力者が議員になるという名誉職化していた。移住者が議員になったことはなく、移住定住ににくい環境になっていた。

（議会活動）

・移住者が気軽に相談できる環境の構築を提言（平成 23 年 6 月一般質問）

→平成 25 年 3 月に、蘭越町移住定住ネットという移住者等の会員で構成する組織を設立

・町営住宅の連帯保証人の規定緩和を提言（平成 23 年 9 月一般質問）

→周辺町村と同様に、連帯保証人が町内限定という規定を緩和

・移住定住の推進を提言（平成 24 年 3 月一般質問）

→移住定住促進条例を一部改正し、5 年間延長を実現

・町ホームページに移住定住を促進している旨のユーザビリティ強化を提言（予算決算特別委員会）

→町ホームページのトップページに、バナーを設置

・定住促進住宅の入居条件の緩和を提言（予算決算特別委員会）

→養育する子どもが 2 人以上が 1 人以上に緩和

（議会活動以外）

・蘭越町移住定住ネットで、ブログやフェイスブックを通じて、町の情報を毎週情報発信

- ・移住定住のシンポジウムを開催
- ・移住定住に関するまとめサイトを3つ作成
- *北海道でスローライフ！ニセコ町, 倶知安町, 蘭越町の移住支援情報
- *北海道ニセコの不動産屋！田舎暮らし, 土地建物, 中古物件は地元が安心
- *北海道ニセコでの起業に使える助成金！

■ポイント

(生活者起点) 自分自身が移住する際に苦労したことを改善している。また、移住者からも同様の意見を聞いていた。

(透明性) 一般質問、予算特別委員会、決算特別委員会での質疑はすべてブログで公開し、透明性を担保している。

(対住民) 移住者等のメンバーで構成する移住定住ネットの組織を設立、会のブログやフェイスブックでの情報発信、移住定住のシンポジウム開催など住民を巻き込んでいる。

(創造性) 移住施策として金銭付与等のハード面が重視されがちであるが、移住者が気軽に相談できる場をつくるというソフト面を重視した取り組みである。

(地方分権) 今後、地方の高齢化や人口減少が進む中、移住促進は時代の流れに沿っており、また移住者のリソースを活用したまちづくりは地方分権の理念にも合致する。

(経済性) 60歳の定年夫婦が移住した場合、経済効果は1億円程度との試算もあり、経済性や効果としては申し分ない。

■参考 URL

<http://blog.livedoor.jp/rankoshinet/>

<https://www.facebook.com/rankoshiizyutejyunet>

■添付ファイル

蘭越町移住・定住者ネット企画

シンポジウム

国籍や生まれも育ちも考えも違う人たちが共存する町で、健康でいつも笑顔で気持ちよく暮らしたい。そんな願いを叶えるための町民参加の討論会です。どなたでもお気軽にご参加ください。そして、あなたのご意見を聞かせてください。終わった後は、懇親会も行います！

プログラム

- 15:30 開場
- 16:00 開会あいさつ
蘭越町移住・定住者ネット会長 谷内 宏
- 16:05 第1部 基礎講演
テーマ「きらりとひかるまちづくり
～移住・定住をすすめるために～」
講師 木村俊昭 (東京農業大学教授)
- 17:05 第2部 町民パネルディスカッション
テーマ「この町で、笑顔で暮らすために
私たちにできることってなんだろう？」
パネリスト
木村俊昭&蘭越町民有志たち
コーディネーター
渡辺豪 (移住4年、中学校教員、移住定住者ネット副会長)
- 18:00 閉会



講師プロフィール
木村俊昭

1960年北海道生まれ。1984年小樽市入居。小樽で、延命の巻巻の別荘で、ものづくり職人の職人志士など地場産業文化振興に奔走。ガラスのまち、ものづくり職人のまちを築き、2006年から内閣官房・内閣府定住官・農林水産省大臣官房定住課を歴任。テレビ出演、著書の多数。

2014
8/23±

16:00~18:00 (15:30 開場)

場所 らぶちゃんホール
多目的ホール (蘭越町43-1)

主催 蘭越町移住・定住者ネット

入場無料 申込不要

この町で、**笑顔**で暮らすために
私たちにできることってなんだろう？



蘭越を愛する、
すべての方へ。



お問合せ 総務課企画防災対策室まちづくり推進係
TEL:0136(57)5111 FAX:0136(57)5112
Mail: info@town.rankoshi.lg.jp

5. まとめサイト

決算特別委員会の質疑から、まとめサイトを41個作成し、ニセコエリアの観光ナビゲーションを毎月1万人以上に実施

■取り組み概要

（背景）北海道の蘭越町（人口5,000人）では、らんこし米がブランド米として一定の評価を得ている。しかし、首長が7期目で76歳、議員の平均年齢が68歳（私を除く）と非常に高齢であり、ネットを活用した情報発信がまったく出来ていないという課題があった。

（議会活動）らんこし米に関して、どこで購入することができるのかという一般消費者からの問合せが多くあった。そのため、決算特別委員会で、購入できる場所の一覧を作成するように提言した。首長の答弁は、同じ課題を共有しており、内部で検討したいとのことであった。

（アイデアの着想）らんこし米の件に限らず、ニセコエリア（蘭越町、ニセコ町、倶知安町）の情報を観光客等に対して横断的に情報発信し、情報検索というホスピタリティが必要であると考えた。

（行政の限界）ユーザ目線ではニセコエリアは一体であっても、行政区分が異なるため、情報を横断的に発信することが困難であった。そのため、住民有志で取り組むこととした。

（施策の実行）全国初となる、まとめサイトを活用した地域情報のナビゲーション強化を行った。作成したサイトは41個で、らんこし米に限らず、温泉、観光、宿泊、イベント、グルメなどエリア的なものだけでなく、組織も横断する情報発信を行った。

■ポイント

（生活者起点）ネットを活用した観光資源の情報発信がまったく出来ていないという住民からの声に基づくものである。

(地域ビジョン) 2014年7月、国土交通省の観光庁が、ニセコエリア(蘭越町、ニセコ町、倶知安町)を観光圏に指定しており、今回の取り組みは、この流れを先取りしたものである。

(透明性) まとめサイトを作成し、情報発信をしている人が誰であることを明確にしていることで、情報の信頼性を向上させている。

(対住民) 作成したまとめサイトをfacebookで紹介し、また取り組み全般に関して報告会を開催するなど対住民に対しても情報を公開し、共有している。

(議会の機能) 議員として政策提言を行ったが、すべて行政に依存するのではなく、住民を巻き込み実施するという方法もあることを他の議員や行政職員にも気づきを与えている。

(おもしろさ) 作成した41個のサイトには、「カップルや夫婦におすすめ!ニセコ温泉郷の混浴露天風呂」などのようにユニークなものもある。

(地方分権) 北海道の人口5000人の町のたった1人の議員でも、自らの取り組みによって地域連携型の取り組みができることを証明し、行政や議会に一石を投じている。

(先進性) まとめサイトを活用した地域一体での情報発信は全国初の取り組みであり、メディアに掲載されるなど注目されている。

(継続性) イベントとは異なり、一旦、サイトを作成すれば情報発信し続ける仕組みとなっている。また情報の修正はほとんど手間がかからず継続性としても問題がない。

(経済性) 施策経費は0円である。経費をかけずに、地域の課題を解決させ、毎月、1万人以上に観光情報のナビゲーションを行うなど効果をだしている。

■参考 URL

<http://matome.naver.jp/mymatome/NisekoCC>

■添付ファイル

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20140327-00000053-zdn_n-sci

Y! 入力して検索 検索 ログイン 地域を指定

安全検索 McAfee

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得 ログイン

キーワードを入力 ニュース 検索 +

トップ 速報 写真 映像 雑誌 個人 Buzz 意識調査 ランキング

国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ 地域

[PR] 薄毛対策をあきらめたくないあなたが、最後に試すべき新?

iPhone誕生秘話 最後通告受け NEW! コンピュータトピックス

IT・科学 IT総合 科学 製品

全国初!? 「NAVERまとめ」で町おこし 北海道・ニセコ住民有志が「まとめ」公開

ITmedia ニュース 3月27日(木)13時33分配信



北海道ニセコ町と周辺エリアで、住民有志が「NAVERまとめ」を使った地域活性化に取り組んでいる。「ニセコのユニークなイベント情報まとめ」「ニセコのパウダー危機?! チセヌプリスキー場休止に陳情が殺到してる」など、観光情報や現地発の情報まとめ26本を公開。「まとめサイトを活用した地域活性化の取り組みは全国初では」という。

行政に頼らず、住民が制作。ニセコ町の小野剛良さん、真狩村の市川生司さん、蘭越町の琵琶博之さんが、2カ月かけてまとめたという。地域住民の目線で情報を集約し、観光客へのナビゲーションや、住民の交流促進、地域資源の再認識などにつなげる狙いだ。

公開したのは、2本のほか「ニセコの観光旅行に役立つ写真撮影スポット」「ニセコのバックパッカー宿を特集」「すすきの・新千歳空港〜ニセコのライブカメラ!」など。

ニセコエリアの蘭越町では、住民有志が電子書籍を出版する町おこし企画「らんこし作家デビュー・プロジェクト」も進められている。

画像: ITmedia

6. フェイスブック祭り

一般質問で政策提案を行い、20市町村のエリアを対象に、全国初の SNS を活用した地域活性化イベントを 6 回実施

■取り組み概要

（背景）北海道の蘭越町（人口 5,000 人）は、首長が 7 期目で 76 歳、議員の平均年齢が 68 歳（私を除く）と非常に高齢であり、ネットを活用した情報発信がまったく出来ていないという課題があった。そのため、選挙の公約として、“ICT を活用した町外向け PR 強化” という町の課題解決を掲げていた。

（政策トライアル）議会議員として、情報発信に長けている住民自らが町資源をピーアールする仕組みづくりの必要性を感じていた。そのため、フェイスブックユーザに特典を付与し、その条件として情報を発信してもらう政策を立案した。そして、町のアンテナショップである「街の茶屋」とタイアップし、政策のトライアルを行った。結果、想定以上に情報発信の効果があつた。

（議会活動）トライアル結果の有効性を踏まえ、定例議会の一般質問にて、全国初「facebook 祭り」開催の政策提言を行った（H24. 9. 19* 添付参照）。町長の答弁は、「町の活性化や町外向けピーアール強化になる。行政よりも facebook ユーザで実施する方が効果的。町としても支援したい。」であった。

（政策実行）後志総合振興局の 20 市町村のエリアにて、各市町村の団体や地域住民を巻き込みながら、全国初となる「後志フェイスブック祭り」を実施してきている。1 回目（H24. 11. 24）は食をテーマに 3 町 3 村の 6 店舗、2 回目（H25. 2. 23）は温泉をテーマに 4 町 3 村の 7 施設、3 回目（H25. 5. 13~5. 16）は facebook セミナーをテーマに 4 町 1 村の 5 会場、4 回目（H25. 8. 24）は食等をテーマに 1 市 6 町の 10 店舗、第 5

回(H25.12.1)、は温泉をテーマに5町2村の7施設、第6回(H26.8.2)は温泉をテーマに2町1村の13施設を対象とした。

(政策サイクル) SNS時代の先進的な取り組みとして、リアルな場での打ち合わせを一切行わず、企画の立案から実施、検証まですべてfacebook上にて完結している。結果、約6ヶ月に1回のハイペースで政策を行っている。また、2回目は温泉と節電をからめ、3回目は目的別レベル別のfacebookセミナー開催による普及啓発、4回目はテーマを絞らず意欲のある店舗、5回目と6回目は温泉ソムリエに絡めるなどPDCAを着実に実行している。

(成果) 約1/20の経費と稼働で、約20倍の情報発信の成果を出している。通常、後志管内全体でのイベントは100万円程度かかるが、フェイスブック祭りは5万円程度である。また、1回のイベント毎に、100名以上のフェイスブックユーザが地域資源を情報発信し、20名以上がイベントをシェアし、さらに「いいね」で情報が拡散されている。1人の議会議員が後志管内の地域全体を巻き込んだ全国初の先進的な取り組みは、多数のメディアに掲載され、また「えにわフェイスブックまつり*添付参照」など他エリアにも展開されている。

■ポイント

(生活者起点) 町外向けPR不足が町の課題であるというのは住民からの意見に基づくものである。また情報発信は行政が不得手な分野であり、地域資源をいかに発信するかは管内20市町村の共通の課題でもあった。

(地域の将来) 食、自然、温泉、人など地域には豊富な魅力があるが、フェイスブック祭りを通じて、情報発信だけでなく、地域住民が地域の魅力を再発見する機会にもなっている。

(政策の理解) ブログや電子書籍(参考URL参照)ですべての情報を公開している。また専門のサイトを作成したり、報告会の開催(参考参照)、facebookにて政策の理解を促すようにしている。

(住民の巻き込み) 蘭越町だけでなく、管内市町村の組織(神恵内村魅

力創造研究会、ニセコ町フェイスブック会、真狩村フェイスブック会等)や住民を巻き込み政策を実行している。

(住民自治) 行政から人的なサポートを受けずに実施してきており、管内全体でまさしく住民自治のモデルを実現していると言える。

(役割の再考) 一般質問等により首長に政策提言を行った場合、実施可否は行政任せであった。今回のように、管内の住民や団体を巻き込みながら、政策を実行することで、議会や議員はフリーハンドであることを再考させている。

(先進性) facebook を活用した地域づくりは、SNS 時代の新しい形であり、先進的かつ画期的な取組みであり、多数のメディアにも掲載されている。

(経済性) 後志管内でのイベントの場合、通常 100 万円程度要するが、フェイスブック祭りは 5 万円程度であるなど 1/20 の経費で実現できている。

(効率性) リアルな場での打ち合わせは一切行わず、企画の立案から実施、検証まですべて facebook にて行うなど SNS 時代にふさわしい効率的な運営をしている。

(話題性) 新聞、雑誌、ラジオなど各種メディアにも取り上げられており (* 添付参照)、話題性としても十分である。またフェイスブックユーザーに無料などの特典を付与しており、インパクトも十分である。

(発展性) SNS 時代の PR 手法であるため、様々な取組みにも応用することができる。また恵庭市などでも同様の取組みがされており、他エリアへも波及している。(* 添付参照)

(継続性) 後志管内のイベントは通常 1 年に 1 回であるが、これまでに 6 回実施していきいている。継続性も問題なく、また経費や稼動など負担のかからない方法を実現している。

■参考 URL

<http://p.booklog.jp/book/81387/read>

■添付ファイル

公明新聞 (2014年7月31日) 他



ニセコ湯めぐりパス

後志フェイスタック祭り

フェイスタック (FB) に感想を投稿するだけで利用料が無料に。冬のパウタースノーや豊かな自然を求めて国内外から観光客が訪れる北海道ニセコ地域。この観光資源をPRするため、飲食店や温泉施設を利用した感想をFBに投稿すると、料金を無料にするイベント「後志フェイスタック祭り」が話題を呼んでいる。

同イベントの実行委員会は8月2日、後志総合振興局管内のニセコ町や蘭越町、真狩村の温泉施設13カ所で開催。

新しい風 地域おこし最前線

ニセコ湯めぐりバス(3回分の入浴料が無料)をFBに投稿すると、料金を無料にするイベント。今年5月、温泉の知見や効果的な入浴方法をア

6人にバスを発行する予定。

同イベントは、地域を元気にしたい青年有志が、住民参加型のイベントを通して情報発信をしようとするFBで意見交換をしたのがきっかけ。2012年11月の1回目から、飲食店や温泉施設など利用を無

SNSで魅力を発信

投稿で無料、同伴客で売り上げ増

ドライブする温泉ソムリエが地域に56人誕生したこと、ニセコ町が改名50周年を迎えることを記念して、先着10

人と乗客効果を強調する。

参加店側からも「FBの感想をもとに、試作段階の商品を改良して通常のメニューに



イベントについて話す温泉ソムリエの今川さん(中)と実行委員の穂積さん(右)、高橋さん(左)。

「実行委員の打ち合わせは、FBのやりとりで完結するため、労

加えた(蘭力や経費はほとんど掛からない)と穂積さん。さらに、「S越町「街の茶屋」朝比奈隆NS(ワソーシャル・ネットワーキング・サービス)だから年取得した温泉ソムリエの地域で一つのイベントを企画できる」とも。若い世代の新たな発想が地域を動かしている。

資格を生かして、多くの人に温泉の魅力を伝えたい(同町「幽泉園」今川藍さん)と。北海道支局・渡口政樹

7. 新人議員

議会や議員活動の情報公開、2つの町議会の過去10年以上の一般質問データベース作成等により、町村議員の立候補予定者を増やす取り組み

■取り組み概要

（背景）北海道の蘭越町（人口5,000人）は、首長が7期目で76歳、議員の平均年齢が68歳（私を除く）と非常に高齢であり、インターネットを活用した情報公開の取り組みが非常に遅れていた。

（議会活動）任期前半では、定例会の議事録及び議会だよりをホームページに掲載することに成功した。

（議員活動）議会や議員が何をしているかわからないという住民の声に応えることにより、町村議員の立候補予定者に若手の新人が増えると考えていた。そのため、次の取り組みを行った。

・ ブログと facebook

2011年12月からブログを毎日更新し、結果、議員ブログで検索順位1位になるほどまでに情報公開をしている。また facebook（友達1,800人）でも情報発信及び交流を行っている。

・ 議員活動を電子書籍で出版

第8回マニフェスト大賞に応募した取り組みをすべて電子書籍で無料公開している。（閲覧数1,328人）

・ 一般質問データベースを公開

ニセコ町と蘭越町の一般質問データベース（過去10年分以上）を作成し、公開している。また直近3年分は電子書籍でも無料配信している。

・ 選挙の立候補マニュアル

蘭越町議会議員選挙 立候補マニュアルの電子書籍を9月1日に出版し、あわせて製本した本を町内の図書館に寄贈することになっている。

(期待される効果)

これまで情報がすべてクローズドになっていたため、若手の新人が立候補しにくい環境であった。上記の取り組みにより、議会や議員に関心をもってもらい、また議員当選後も即戦力としてスタートダッシュがきれるものと想定している。

■ポイント

(生活者起点) 議員が何をしているかわからないという住民の声は全国的なものであり、特に町村においてはその課題が顕著である。

(新規性) 電子書籍で議員活動を公開したことは、新しい取り組みである。

(創造性) 一般質問に特化したデータベースがなかったため、観光で有名なニセコ町、農業で知られている蘭越町の過去 10 年分以上のデータベースを作成し公開したことは、ユニークな取り組みである。

(地方分権) 現在の町村議会議員はほとんど名誉職化している。やる気のある若手新人が出てくることは地方分権を進めて行く上でも必要なことである。

(経済性) ブログは毎月 515 円の費用がかかっているが、それ以外はすべて無料で作成し、管理費も無料である。

(拡張性) 議員活動の電子書籍や一般質問のデータベースは、全国の町村議員にも参考になる情報である。

■参考 URL

<http://nisekocc.jp/archives/3680>

<http://nisekoweb.sblo.jp/>

■添付ファイル

立候補マニュアル電子書籍 他

蘭越町議会議員選挙 立候補マニュアル



1人でできる！3万円でできる！

8. 議事録

北海道の 179 市町村議会のホームページでの情報公開度を独自調査し、結果を電子書籍で公開。77 市町村議会に対して、定例会の議事録を掲載するように陳情書を提出。

■取り組み概要

（背景）蘭越町議会では、定例会の議事録を確認する場合、平日の日中に、議会事務局に出向き、議長の許可を得て閲覧することになっていた。そのため、住民が議会をチェックしにくい環境になっており、議会が何をしているかわからないという声にもつながっていた。

（議会活動）議会活性化協議会での提言等を通じて、定例会の議事録や議会だよりをホームページに掲載し、いつでもどこでもチェックしやすい環境を整備した。特に議事録に関して、住民から議会での審議がわかるようになったと好評であった。

（付加価値）他議会でも同様の課題があるのではないかと思い、北海道の 179 市町村議会でのホームページの情報公開度を独自基準で調査した。10 項目に関して、0 点～10 点までの点数で数値化し、調査結果は電子書籍で公表した。

（調査後）77 市町村議会では、定例会の議事録をホームページに掲載していなかった。そのため、必要性、掲載の方法、相談に応じる旨の資料とともに、陳情書を提出した。回答結果は、すべてホームページで公開するようにしている。

（成果）調査結果の電子書籍は 3044 人が閲覧している。陳情の結果に関して、6 つの議会で、定例会の議事録をホームページに掲載することになった。（9 つの議会では掲載しない）* 数字は 2014 年 8 月 10 日時点

（今後）定例会の議事録をホームページに掲載しない理由等を分析し、

議会の情報公開及び活性化について提言を行っていきたい。

■ポイント

取組みのポイントとして、地方議員の有志が北海道の179市町村議会の情報公開度を調査した点、100点満点の独自基準によりランキング化した点、結果を電子書籍で公開したことである。また調査だけにとどまらず、陳情書を提出し、プロセスをネットで公開しながら、議会の情報公開を推進させようとしている。

（生活者起点）ホームページで議事録を確認できるようにしてほしいという住民の声によるものである。

（地域ビジョン）議事録が容易に確認できることは、地域での政策を考える上でのベースになるものである。

（透明性）調査結果、陳情書、回答まですべての情報をホームページで公開するようにしている。

（対住民）問題の提起、陳情提出の考え方等をブログやフェイスブック等で情報発信している。

（議会の機能）ホームページを活用した情報公開や議会の活性化を再考させる契機になっている。

（先進性）ホームページでの情報公開度に着目したこと、調査結果を電子書籍で公開したこと、77市町村議会に陳情書を提出したことは前例がない取り組みである。

（地方分権）議会での情報公開を充実させていくことは、地方分権にますます求められていることである。

（規模・話題性）北海道のすべての179市町村議会を調査対象としたことや議員有志で行ったことは規模や話題性としても十分である。

（その他）消滅可能性都市が問題となっているが、移住定住、ふるさと納税等の観点からも有効な取り組みである。

■参考 URL

<http://nisekoweb.jp/kaigiroku/>

<http://p.booklog.jp/book/78253>

■添付ファイル

十勝毎日新聞（2013年12月3日） 他

HPを基に議会情報公開度ランキングを作った琵琶町議



全道1位に芽室

後志管内蘭越町議の琵琶博之さん(41)が、道内市町村議会のホームページ（HP）を基に独自の「情報公開度ランキング」を公表した。管内からは芽室町議会が空知管内奥山町議会と並んで1位とされた。

道内178市町村議会の定例会の会議録、議会中継、各議員の議案賛否、議長交際費など10項目の公開度を独自基準で採点。

蘭越町議・琵琶さん採点

情報公開ランク

道内市町村議会HP情報公開度ランキング

| ポイント | その他順位 | 70位 | 士幌 |
|-------------|-----------|------|-------|
| 1位 芽室町 100 | 10位 浦幌、帯広 | 83位 | 新得、池田 |
| 1位 栗山町 100 | 18位 鹿追、幕別 | 88位 | 大樹、豊頃 |
| 3位 福島町 97.5 | 21位 上士幌 | 100位 | 中札内 |
| 4位 千歳市 87.5 | 25位 足寄 | 111位 | 更別 |
| 5位 白老町 82.5 | 32位 音更、清水 | 116位 | 陸別 |
| 蘭越町・琵琶議員作成 | 38位 本別 | 135位 | 広尾 |

目的の公開度を独自基準で採点。芽室は100点満点で浦幌が帯広などと並び10位に入った。

「まちづくりは住民が主役で、議会情報に誰でもアクセスできることが必要」とHPの情報公開の必要を訴える琵琶さん。「議事録がHPで見られない議会が80もあつたのは問題。議会や議員を動かすのは住民の声。厳しくチェックしてほしい」と話している。

(参考) 第9回マニフェスト大賞 募集要項

2014年 第9回 マニフェスト大賞 募集要項



Manifesto Awards

マニフェスト大賞は、地方自治体の首長、議会、会派、議員や地域主権を支える市民の活動を募集・表彰・発表することで、地方政治で活動を積む人々に栄誉を与え、さらなる意欲向上に期待するために設けられました。政策本位の政治、生活者起点の政策を推進するために、ご応募とご注目をお願いします。

【主催】 2014 マニフェスト大賞実行委員会

(ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟、
ローカル・マニフェスト推進首長連盟など)

【共催】 早稲田大学マニフェスト研究所、毎日新聞社

【後援】 株式会社共同通信社

【協賛】 **NTT DATA** 株式会社NTTデータ



森ビル株式会社

株式会社パイブドビッツ 株式会社ソーシャルグループウェア

【応募期間】 2014年7月1日(火)～8月31日(日)

【授賞式】 11月14日(金)

六本木ヒルズ森タワー49F
アカデミーヒルズ

【応募方法】 専用サイトから必用事項を
ご記入のうえ送信してください。

【問合せ】 マニフェスト大賞事務局

(早稲田大学マニフェスト研究所内)

TEL 03-6214-1315



<http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/>



Manifesto Awards

2014 第9回 マニフェスト大賞募集要項 【応募部門】

下記の部門のなかから優秀賞、最優秀賞を選び表彰します（カッコ内は対象内容）。全ての部門から最も優れたものをマニフェスト大賞として表彰します。

※詳細は専用サイトで。

<http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/>



マニフェスト賞（対象：首長、会派、市民団体）

選挙に際しマニフェスト、または公約を発表し、議会活動などを通じて実現させているもの。また、マニフェストの検証、進捗のチェック等マニフェストサイクルを行っているもの。市民によるマニフェスト型討論会、評価大会、市民マニフェストの作成等のマニフェスト推進への取組み、首長によるマニフェスト型行政推進システム、評価システム等も対象。



成果賞（対象：議会、会派、委員会）

マニフェストの有無を問わず、議会、会派（複数会派も可）、委員会等が議会活動を通じて政策を実現させ、成果を出しているもの。



政策提言賞（対象：議員、市民団体）

マニフェストの有無を問わず、議会活動を通じて行った政策提言。実現に至っていないともよい。提言の背景、提言方法、提案後の取組等も評価する。



ネット選挙・コミュニケーション戦略賞（対象：首長、議会、会派、議員、政党、市民団体、自治体）

ホームページやブログ、SNS、広報誌、チラシ等により情報発信し、住民と活発に情報共有・情報交流を行っているもの。ネット選挙（応募時点までの日常的、継続的な取り組みや成果）、オープンデータ（公共データを利用しやすい形で公開すること）に関する積極的な取組み。



復興支援・防災対策賞（対象：首長、議会、会派、議員、政党、市民団体、自治体）

東日本大震災や各地で起こる大災害を受け、自治体間ネットワーク、自治体と民間との連携、議会、議員、市民等による復興支援等、優れた防災対策活動、政策提言。



マニフェスト大賞（2014グランプリ）

上記の各部門から最も優れたものを表彰します。

【お知らせ】

授賞式の前日、11月13日（木）に各部門優秀賞受賞者によるプレゼンテーション研修会を都内で開催します。詳細、お申し込みはサイトでご確認ください。

【審査委員会】

■ 審査委員長 北川正恭（早稲田大学教授・元三重県知事）

■ 審査委員（順不同）

曾根泰教（慶應義塾大学院教授）

江藤俊昭（山梨学院大学教授）

藤森克彦（みずほ情報総研主席研究員）

西尾真治（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング主任研究員）

杉尾秀哉（TBS テレビ解説専門記者室長）

■ 特別審査委員

箭内道彦（クリエイティブ・ディレクター）

塚本壽雄（早稲田大学教授）

廣瀬克哉（法政大学教授）

千葉茂明（月刊「ガバナンス」編集長）

人羅格（毎日新聞社論説委員）

定金基（NPO 法人カットジェイビー理事）

秋吉久美子（女優）

・ ブログ

<http://nisekoweb.sblo.jp/>

・ facebook

<https://www.facebook.com/hiroyuki.biwa>

・ google+

<https://plus.google.com/104166380014395666155/>

・ twitter

https://twitter.com/hiroyuki_biwa

・ puboo

<http://p.booklog.jp/users/hiroyuki-biwa>

・ naver

<http://matome.naver.jp/mymatome/hiroyuki.biwa>

・ you tube

<https://www.youtube.com/user/nisekoweb/>

第9回マニフェスト大賞 応募内容

発行：2014年8月25日 第1版

作成：琵琶博之（蘭越町議会議員）